



《お知らせ》

■公益財団法人印旛都市文化財センター企画展「令和2年度最新出土考古資料展」開催中

当センター考古資料展示室にて、2021年6月25日(金)まで企画展を開催しています。今回の企画展は、最近発掘調査及び整理作業が行われた匝瑳市多古田低地遺跡(縄文時代)、成田市畑ヶ田遺跡群I(古墳時代)、柏市はなとほら花戸原遺跡(奈良・平安時代)の3遺跡を取り上げます。また、酒々井町墨古沢遺跡(旧石器時代)が令和元年10月に国史跡に指定されたことを記念した展示を行います。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当面の間見学は事前電話予約制とさせていただきます。詳細はホームページをご覧ください。
*考古資料展示室開室日時 平日9時～17時(入館は16時30分まで)。
休室日：土・日・祝祭日・年末年始。無料。

■ホームページがリニューアルしました!

ホームページ(PC版)がリニューアルしました。新たな試みとして発掘調査の様子を動画で公開しておりますので、ぜひご覧ください。



<http://www.inba.or.jp>

《令和2年度 調査を終えた遺跡》

- 〈成田市〉水神作遺跡(第6次)(縄文・奈良・平安時代)
宗吾二丁目遺跡(縄文・古墳・奈良・平安時代)
- 〈佐倉市〉佐倉城跡(歴博第12次)(近世・近代)
宮本手洗遺跡(第3次)(古墳・奈良・平安時代・近世)
太田向原遺跡(第6次・7次)(縄文時代・近世)

《令和2年度 調査中の遺跡》

- 〈印西市〉東海道遺跡(第2地点2次)(縄文・古墳・奈良・平安時代)
前戸遺跡(第6地点)(古墳・奈良・平安時代)
- 〈柏市〉花戸原遺跡(第17次)(中世)

《令和2年度 整理作業中の遺跡》

- 〈佐倉市〉太田向原遺跡(第6次・7次)(縄文時代・近世)
向山谷津遺跡(第3次)(縄文・奈良・平安時代)
- 〈印西市〉アラク山遺跡(古墳時代) 他
榎台第1遺跡(第2地点～5地点)(縄文・古墳・奈良・平安時代)
- 〈柏市〉花戸原遺跡(第10～13次)(古墳・奈良・平安時代・中世・近世)
中馬場遺跡(第9・10次)(奈良・平安時代)

《令和2年度 整理作業を行った遺跡》

- 〈成田市〉野口Ⅲ遺跡(旧石器時代)・水神作遺跡(第1次・2次・6次)(縄文時代)
- 〈佐倉市〉本町遺跡(第4次)(中世) 他
佐倉城跡(歴博第12次)(近世・近代)
- 〈印西市〉西ノ原第3遺跡(縄文・弥生時代・中世)
- 〈四街道市〉ズミ遺跡(第5次)(奈良・平安時代) 他
- 〈栄町〉宮前遺跡(古墳・奈良・平安時代)

*いずれも9月末現在

※発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず事前にご連絡ください。

《ご案内》

ホームページとスマートフォン版サイトをご利用ください。当センターの最新情報をお伝えしています。下記URLもしくはQRコードより閲覧してください。

PCサイト <http://www.inba.or.jp>
スマホサイト <http://www.inba.or.jp/sp>



令和2年10月16日
FAX 043 (485) 9871
http://www.inba.or.jp
FAX 043 (484) 0126 (代)
http://www.inba.or.jp
〒285-0814 千葉県佐倉市春路1-1-4
公益財団法人 印旛都市文化財センター
発行・編集 フィールドブックvol.44

FIELD BOOK



おお た むかひ ほら 佐倉市太田向原遺跡(第5次)



写真1：
1号土坑遺物
出土状況



写真2：縄文土器(底部片)

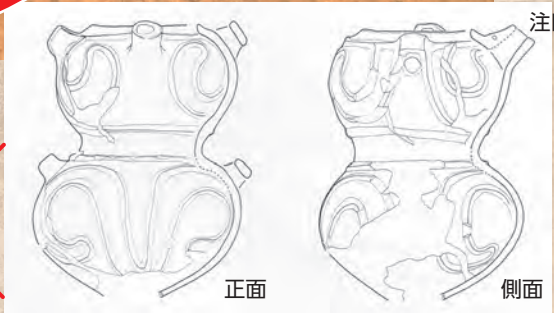


図1：瓢箪形注口土器(六崎貴舟台遺跡(第10次)出土)

太田向原遺跡(第5次)は、印旛沼に注ぐ鹿島川によって開析された標高29mの台地縁辺部、佐倉市太田字長割2099-21に所在する遺跡です。廃棄物処理工場の建設に伴い5月半ばから6月にかけて、約574㎡を対象に発掘調査を行いました。その結果、縄文時代中期(約6千年前)の土坑11基、近世の溝状遺構4条などが検出されました。なお、本調査区の南側に位置する第1次調査区では、平成8年に行われた発掘調査の結果、縄文時代の集落跡が発見されており、今回検出された遺構も同じ集落に伴うものであると考えられます。

出土遺物は多くありませんでしたが、特筆すべき遺物として縄文土器の底部片があります。出土した場所は調査区西側の1号土坑(写真1)でした。この土坑は直径約1m、深さ約70cmを測り、底を含む下側は残存状態が良好でしたが、一部が耕作により破壊されていました。土坑の上部から発見された底部片(写真2)もまた、上半分が破損した状態でした。

今回出土した底部片に似通った土器が、本遺跡から北東約1.5kmにある六崎貴舟台遺跡(第10次)でも出土しています(図1)。「瓢箪形注口土器」と呼ばれるこの縄文土器の特徴は、瓢箪のように土器の中ほどがくびれた形をしていて、上部に注ぎ口が付けられていることです。そのため何らかの液体を中に入れて、注ぐために作られた土器と考えられています。表面に施された渦巻き状の微隆起線(細い粘土紐)や、底部から胴部に向かって一度膨らんだ後くびれていく形状など類似点が多いことから、今回出土した底部片も瓢箪形注口土器と考えられます。

今回の調査では以前調査した集落跡の広がりを確認できたと共に、幸運にも残されていた意外な出土遺物に驚かされました。

佐倉市佐倉城跡（歴博第12次）

佐倉城跡は佐倉市城内町117番地に所在し、印旛沼に注ぐ鹿島川、高崎川、佐倉川の合流地点に突き出した標高約30mの台地上に位置しています(図1)。中世末に築城された鹿島城を母体とし、近世初頭に土井利勝によって整備され佐倉藩の藩庁となって以降、江戸時代を通じて政治・経済の中心地として重要な役割を果たしてきました。今回、国立歴史民俗博物館の改修工事に伴う埋蔵文化財調査が行われ、そのうち65㎡が調査されました。

調査の結果、近世の遺構面(写真1)と近代佐倉連隊の造成面(写真2)の2つの遺構面が確認され、それぞれの面から建物跡が確認されました。

近世の建物跡は掘立柱建物跡の柱穴群であり、調査区を東西に横断する形で検出されました。梁行方向の柱穴が確認されなかったことから、かなり大型の建物であった可能性があります。残念ながら築造の時期は判明しませんでした。これまでの研究によって当地が近世を通じて武家屋敷として利用されていたことがわかっており、建物もいずれかの時期につくられた屋敷群に伴うものと推測されます。18世紀前半の様子を描いたとされる絵図からも、屋敷群の存在を確認することができます(図2)。



図3：佐倉城跡(佐倉聯隊施設)迅速図(部分 国土地理院蔵)



写真3：混合材検出状況



写真1：近世面空撮



写真2：近代面空撮

図1：遺跡の位置



写真4：青磁皿(龍泉窯産)



写真5：白磁皿



図2：佐倉城大絵図(部分 個人蔵)

一方の近代建物跡は、丁寧に盛土を行った後、その盛土を掘削し、石材を敷き詰めて基礎をつくっている状況が確認されました。石材は近世江戸屋敷の基礎に使われていた円形の石と割石の2種類から構成されており、一部では石材が軽石と粘土の混合材によって固定されていました(写真3)。これらは明治6年(1873)に創設された佐倉連隊の兵舎建物(図3)の基礎と考えられ、過去の調査からも同様の基礎が確認されています。

これら2つの建物跡は、時代も用途も異なっていますが、その主軸方向はほぼ同一であり、両者が地形の制約を受けていた可能性が高いと考えられます。

また、調査区内からは中国産の青磁皿(写真4)や白磁皿(写真5)など、中世(14～15世紀)に遡る遺物も出土しており、城郭の整備より以前から人々に利用されていた可能性が浮かび上がりました。

佐倉城は現在、国立歴史民俗博物館として多くの人々に歴史を伝えていますが、その建物の下にもまた、多くの歴史が眠っていることが調査によってわかりました。